

会 議 録（確定稿）

会議名称	第四次西東京市地域福祉活動計画 第10回策定委員会
日 時	平成30年10月23日（火）午後7時～9時
会 場	田無総合福祉センター2F 視聴覚室
出席者	(策定委員) 小林委員・中村委員・多田委員・岸田委員・熊田委員・坂口委員・三輪委員・鈴木委員・伊東委員・海老澤委員・伊田委員・横山委員・藤島委員 (事務局) 池田・鶴野・小平・小口・浜名・妻屋・山田・関根・丸木・松山・本間・齊藤 (コンサルタント) 新橋・小林<株式会社 ジャパンインターナショナル総合研究所>
欠席者	なし
配付資料	《事前送付資料》 資料1 第9回策定委員会会議録（未定稿） 資料4 第四次西東京市地域福祉活動計画 取り組み案（第7章） 《当日配布資料》 資料1-1 第9回策定委員会会議録（未定稿） 資料2 第四次西東京市地域福祉活動計画 骨子案 資料3 「西東京市スタイル」について 資料4-1 地域福祉活動計画とアクションプラン
次 第	1. 第9回（平成30年9月25日開催）会議録の確認について 2. 第四次西東京市地域福祉活動計画 骨子案の修正箇所について 3. 「西東京市スタイル」について 4. 第四次西東京市地域福祉活動計画 取り組み案について 5. その他 6. 次回以降の日程、会場
決定事項	・ ・
会議の内容 及び 主な発言	※次ページの通り

6 会議の内容及び主な発言

7 8 •挨拶

9 (副委員長)

10 •今日は一番肝になる施策の検討と、「西東京市スタイル」という新たなキーワードについて説
11 明をいただき、皆さんと審議していくので、闊達なご意見をいただきたい。2種類のチラシを
12 配布したが、一つは全国の市民活動団体のリーダー層が集まる市民セクター全国会議で2年に
13 1回開催し旬の地域課題、社会課題が議論されるもの。もう一つは、ほっとネットの取り組み
14 だ。では、次第に従って進めていきたい。

15 16 1. 第9回(平成30年9月25日開催)会議録の確認について

17 (副委員長)

18 •もしこの場で特になければ、10月26日金曜日5時15分までにもう一度コメントいただき
19 たい。

20 21 2. 第四次西東京市地域福祉活動計画 骨子案の修正箇所について

22 •事務局、コンサルタントより資料2「骨子案」について説明

23 【質疑・検討事項等】

24 (副委員長)

25 •10月の委員会で指摘のあったところを修正したということだが、何か質問あるか。
26 また気づいた時点で構わないので提案いただきたい。

27 28 3. 「西東京市スタイル」について

29 •事務局より資料3「西東京市スタイル」について説明

30 【質疑・検討事項等】

31 (副委員長)

32 •「ネットワーク事業といわれる4つの事業が密接に連携する」ということと、「展開する圏域を
33 1層、2層、3層としている」ことが肝で、この両方が絡み合うということである。イラスト
34 については置いておいて、まずは「西東京市スタイル」自体についての質問、コメントご意見
35 いただきたい。

36 (委員)

37 •今まで関わってきた中で、いろいろな専門職、団体、ほっとネット推進員などの動きが重なり
38 合う部分があるのは、一般市民も重々知っている。よって、「施策」ということであれば、取り
39 組みたいことの軸がブレないように、例えばケーキを切るときの中心線がどこなのか、窓口が
40 どのなのかと迷っているのがいまの状況だと私は考えているので、その辺を明確にすることが
41 大事であると思うがいかがか。

42 (事務局)

43 •現状としては、委員がいわれるように「わかりづらい」という声を聞いている。「西東京市ス
44 タイル」の主たる事業「ふれまち、ほっとネット、りんく、生活困窮」これらの窓口で、それ
45 ぞれが受ける典型的な相談事例はあるかもしれないが、課題を抱えている市民が4つの窓口を
46 自分でチョイスし、正しく行けるかという、必ずしもそうではない。そこが「わかりづらい」
47 といわれているところだと思う。今回の四次計画の中で、ここを一体的、ワンストップにして

48 いける形を目指すのが、ケーキに様々な具材を混ぜ込んだ形の図になった。4つの生活圏域ご
49 とでワンストップに捉えていきたいという意向をご理解いただきたい。

50 (委員)

51 ・現状をわかっていた上で4分割して、それぞれの4分割ごとに動き出すイメージでよろ
52 しいか。

53 (事務局)

54 ・はい。事務局としては、この計画の推進期間5年間の中で、そこにたどり着きたいと考えてい
55 る。

56 (委員)

57 ・ワンストップということは、困っていることをどこに相談していいかわからない人や、相談の
58 窓口があることも知らない人が、そこへ行けばどんな困りごとにも相談できて、確実に解決して
59 くれる人や機関につながいでくれるというイメージでよろしいか。

60 (事務局)

61 ・いわれるとおりのイメージで描いているつもりだ。

62 (副委員長)

63 ・「ワンストップ」と入れてもいいかもしれない。また、「わかりにくい」など市民の方々からの
64 声を受けて、というような背景の説明が1、2行あってもいいかもしれない。他になれば、
65 「イラストのケーキ」に移りたい。事前の打ち合わせで、このケーキで良いのかとみんなで話
66 し合いをした。1層、2層、3層という部分はエリアの大きさであり、そこに4つの事業が絡
67 んでいるということであるが、このイメージはいかがか。

68 (委員)

69 ・全市民が見るにあたって、やはりわかりにくいと思った。ただ今の説明があれば、なるほどと
70 思うが、説明が無くて紙ベースでみるとわからない。もっとわかりやすく表現していただきた
71 い。

72 (事務局)

73 ・紙1枚で納めるとこれが精一杯なところがある。事務局としても今後これをどう説明していく
74 かを考えていきたい。ただ、わかるように全部を盛り込もうとすると、かなりのページ数にな
75 るので、この1枚に凝縮したものである。説明資料なので、概要版等を作ったときに、必要な
76 説明を入れていければいいと考えている。

77 (副委員長)

78 ・これで確定ではないが、イメージとして「ケーキより〇〇が概念的にはわかりやすい」などと
79 という意見も含めて、この段階で意見をいただきたい。

80 (委員)

81 ・確認だが、現在主として、西東京市社協でやっている4つの事業をとらえた協議をしているが、
82 この地域福祉コーディネーター、生活支援コーディネーターなどの取り組みは、他の自治体で
83 もあるのか。また、「西東京市スタイル」というには、相当な特色がないといけないと思うが、
84 どこでもやっているものを、単にくっつけているだけではないかという話にならないような工
85 夫が必要であると思う。ふれまち、生活支援コーディネーターなどを他の市区町村でもやって
86 いるか伺いたい。

87 (委員)

88 ・地域福祉コーディネーター、生活支援コーディネーター、生活困窮などは、他のところでもや
89 っている。東京都としては理想として、そういうコーディネーターを配置することを勧めてい

90 るので、特段西東京市だけではない。しかし、ここでいう「西東京市スタイル」というのは「包
91 括的な支援体制」のことだと思う。相談機関としては、当然地域福祉コーディネーターは必要
92 だと思う。国は生活困窮などの窓口強化を推しているので、取り組み事業に入って当然だと思
93 う。ふれまちは、西東京独自だと思うが。

94 (委員)

95 ・生活支援コーディネーターを包括に置いている市区町村も結構多いが、社協にこの4つが全部
96 入っている市区町村もあるということか。この事業自体が全部、国が実施を定めた事業だから、
97 どこの市区町村にもあるけれど、4つ重なっている市は、他にもあるのか。

98 (委員)

99 ・あると思う。が、生活支援コーディネーターは包括に置かれているところもある。生活困窮は、
100 東京都以外では、社協がやっているが、都内では社協がやっていない市区町村が多いので、こ
101 の4つの事業が社協に揃っているのはそんなに多くない。

102 (事務局)

103 ・多田委員の話にあったように4つ全てを持ち合わせているところは、極端に少なくなると考え
104 ている。このことは「西東京市スタイル」の1番のコアな部分になる。この4つの事業で今後
105 生活圏域ごとにワンストップで受け止めていきたいというのが「西東京市スタイル」の一番の
106 推しの部分でもあるが、これに加えて、やはり関係機関との連携、例えば社会福祉法人の連絡
107 会としての取り組みが、地域の活動とリンクしていることも西東京市としてのオリジナルだ。
108 例えばフードドライブを介して子ども食堂に食料が届くなども既に実践されている。このよう
109 なところも新しい社会資源の創設につながっている。コアな部分は4つの事業であるが、視野
110 を広げると関係機関との連携を含めて取り組める。これが「西東京市スタイル」だ。

111 (事務局)

112 ・補足させていただきたい。これだけ4つ揃っていて、かなり先駆的にやっているところは、あ
113 まりないと思う。唯一無二ではないが、東社協が推薦したいろいろな取り組みのお手本になる
114 と思ったので、7月に中間のまとめを出していただいたとき「西東京市スタイル」という名称
115 をつけさせてもらった。

116 (委員)

117 ・普通に市民が見たり、社会福祉法人で働いている私たちが見ても、「生活支援コーディネータ
118 ーと地域福祉コーディネーターの違いは」と言われて、明確に違いが伝えられないという状況
119 ではないかと思う。ユーザーに向かって一例を挙げて「この問題はこういうふうに取り上げて、
120 コーディネーターにつなげて」と図解をしてあると納得できるが、この図を見ただけではとて
121 も苦しい気がする。

122 (委員)

123 ・私も今の意見と同じだ。ケーキの絵を描いて図解していただいたが、かえって私にとってはわ
124 かりにくい。もっと文字を大きくして、わかりやすい説明があった方が理解しやすいと感じた。
125 私は民生委員だが、いろいろな事業に関わるという現状から、「民生委員は、この事業に関わる」
126 というように、きっちり分けるのは難しいと思う。あえて、この図のように関係機関の置き所
127 をきっちりわけなくてもいいのではないかと感じる。やはり図よりも文字と書き方をもっとわ
128 かりやすくしていただいた方がよいと思う。

129 (委員)

130 ・3層あるとなると、普通は1層目があって、それがスポンジ・土台のイメージで、その次に2
131 層、3層と3段になっているケーキになるはず。そこで、2層はここです、3層はここですと
132 なったときに、何で2層がここで、3層がここにあるのか、どういう造りのケーキなのかと考
133 えてしまう。1層はどこへいったかといえば、外枠へいつてしまっているので、ケーキに例え
134 た意味がないと思う。3層構造ということであれば、土台の部分があって、2層目、3層目と

135 重なっていくイメージがあるが、事務局の説明を聞いている限りでは「西東京スタイル」は、
136 そういうイメージではないととらえた。先ほどのワンストップや連携などという説明は、すぐ
137 くわかるが、ケーキに例えてしまったからわかりにくくなっている面がある。作成した労力を
138 考えると申し訳ないが、これで理解するのは難しいと思う。

139 (委員)

140 ・この絵を活かすために字が小さくなっていると思う。実際、市民がこれを見たとき自分はどこ
141 に位置するのかがわかるようにするとイメージが付きやすいと思う。また1層、2層、3層が
142 バラバラになっている。1層、2層、3層の切れ目が具体的に分かるような、例えば弁図の重
143 なった真ん中に社協がいるといったように、飾らなくてもいいので、わかりやすいイメージで
144 「自分は、どの事業なら知っている」「ここの窓口を利用したことがある」という観点から入っ
145 て、つなぎ役にはコーディネーターがいるというようなわかりやすいイメージで、見てもら
146 うとよいと思う。

147 (委員)

148 ・感想としては、このケーキが邪魔である、気に入らない。住民懇談会に携わっている者として
149 は、「住民懇談会」が堂々と位置づけられているが、今の活動全体を眺めてみると、ここに鎮座
150 しているものかと。自分自身、活動の展開について悩んでいる。全体的なレイアウトをもう一
151 度まとめ直していただきたいと思う。

152 (委員)

153 ・西東京市社協をベースに考えると、どういう表現になるかは別として、以前、自分が持つ「西
154 東京市スタイル」のイメージをここで伝えた。西東京市が健康と福祉を結び付け福祉関係、健
155 康、保健を一緒にして部になったことはすごくユニークなことである。健康というイメージを
156 前面に出して、フレイル予防をすすめ、すごい勢いでボランティアも増えて成果も上げつつあ
157 る。東京都で、フレイルの体制をつくったのは、西東京市がトップのようだ。これは1つの西
158 東京市スタイルになりうるのではないかと。また、地域包括支援センターの基幹的役割もされて
159 いる。やはり「西東京市スタイル」という以上は社協ファンも大事ではあるが、それ以外の要
160 素も盛り込まれないと「西東京市スタイル」にならないのではないかと。せっかく西東京市から
161 委員が出席されているので、その点も含めてご意見をお聞きしたい。

162 (委員)

163 ・西東京市のフレイル予防などのお話をいただいたが、この地域福祉活動計画は、社協に特化し
164 た都内でも誇れる部分だと私は思う。ふれまちなどは、全国的にも少なく歴史的にもずっと行
165 ってきた事業でもあり、そこに高齢の分野で生活支援コーディネーターという事業を委託しな
166 がら展開している。確かに私も異動して来たときに、どうしても地域福祉コーディネーター、
167 生活支援コーディネーターというのが、なかなかストーンと落ちてこない部分もあった。そうい
168 った意味で市の方でも、市民にとってわかりづらい部分を何とかしようと、ネットワーク事業
169 について、重層的に検討しつくり上げていく予定にはなっている。個人的には、社協が独自で
170 取り組んでいる分野を、前面に出した方がいいと感じる。

171 (委員)

172 ・市も地域福祉計画を策定しており、この中で「健康応援都市の実現を目指す」という表記はし
173 ている。更にネットワークの整理という課題については、西東京市の地域福祉計画上でも重要
174 な課題となっており、計画の中にも書き込んでいくつもりである。保谷庁舎において、ほっと
175 ネットとサポート相談窓口を近くで見えるのは、ほっとネットは、アウトリーチが優れて
176 いる、逆にサポート相談窓口は、あまりアウトリーチ機能がないという課題もあるが生活困窮
177 への対応という専門部分に優れると思っている。これらのいい所が重なり合うと、もっとマン
178 パワーも増え、機動力も上がっていく等、相談窓口として1つになることのメリットがあると、
179 実践を通じて感じている部分だ。そのような意味で、「西東京市スタイル」を説明いただいたと
180 理解したい。

181 (副委員長)

182 ・時間も迫っているので、事務局にて説明をお願いしたい。

183 (事務局)

184 ・今回、第5章として提示させていただいた資料は、「西東京市スタイル」の説明文と「イメージ図」、「4つの事業の連携図」の構成となっている。「西東京市スタイル」の説明については文章を読んでいただき、それを何かしらの図示をしたいと考えた。イメージ図については奇抜なものを提示したいと思い、ケーキの図を作ったが、この図に関しては、あらためて検討させていただきたい。また最初の文章では、4つの事業が連携し、他の事業とも連携して解決に向けて取り組むということに記載しているので、この内容については次回ご意見をいただきたい。

190 (副委員長)

191 ・考え方自体に反対している人は一人もいないので、要はケーキか否かというところであろう。こういったことも想定していたものの、もう少し知恵を絞って他の代替案でも構わないので、何かいいものがあれば是非、事務局までご提案いただきたい。

194

195 4. 第四次西東京市地域福祉活動計画 取り組み案について

196 ・事務局より資料4「施策の展開」について説明

197 【質疑・検討事項等】

198 (副委員長)

199 ・「具現化に向けた取り組み事業」のところは、基本目標ごとの施策に照らした「策定委員会での意見」を記載している。現在、活動計画と同じ5年間における社協としてのアクションプランを協議中とのことなので、それが決定したら、ここに示されるということでしょうか。

202 (事務局)

203 ・そのとおりである。策定委員会での意見を踏まえたアクションプランがそこに入る。さらに関連して事務局として取り組むその他の事業は、「その他の取り組み」に記載する予定である。

205 (副委員長)

206 ・策定委員会の意見なので、これも参考にさせていただく前提だ。では、目は通されていると思うが、一度読んでいただき、基本目標1から進めていきたい。

208 ・事務局より資料4「基本目標、施策、具現化のための取り組み事業」について説明

209 (副委員長)

210 ・では、基本目標1から、追加で入れたいものなどあれば、発言いただく。本協議も終盤にはいつているので、字が違っているなどの細かい指摘もあればお願いしたい。

212 (委員)

213 ・確認だが、4ページ「災害時ネットワークの充実」の「要支援者」は、「要配慮者」という言い方もするが、あえて「要支援者」としているのか。

215 (副委員長)

216 ・いろいろな言い方があるのは確かだ。

217 (委員)

218 ・現在、西原包括では、「要配慮者の研修交流会」とか「要配慮者の訓練」という表現で企画に取り組んでいる。

220

- 221 (事務局)
- 222 ・特に理由はない。取りまとめた資料を基にしている。
- 223 (副委員長)
- 224 ・これは策定委員会の中での意見なので、市に確認し、表記の変更も必要となってくるであろう。
- 225 (事務局)
- 226 ・以前、市で、災害時要支援者をどうするかの問題があり、当時は「要支援者」という表現を使
227 っていた。今は「配慮」と言うかもしれないので、もう一度確認する。
- 228 (副委員長)
- 229 ・他は、いかがか。
- 230 (委員)
- 231 ・各施策のSDGsのアイコンが、すべて同じ3つの目標が入っているが、それは意図があるの
232 か。
- 233 (副委員長)
- 234 ・これから対応するものを当てはめていく。
- 235 (委員)
- 236 ・自治会と町会というのは、どう違うのか。この言葉の使い方は概念的にどう使われているのか。
- 237 (事務局)
- 238 ・「第3区町会」などの名称もあるので、「町会」を入れたが、自治会だけの表記が正しければ、
239 削除したい。
- 240 (副委員長)
- 241 ・もう少し一般的な言い方だと地縁組織などでもいいだろうが、事務局で検討いただきたい。
- 242 (委員)
- 243 ・5年後の西東京市で「いざというときに住民同士で助け合うことができます」のところで、「い
244 ざというとき」というインパクトを出したいのであれば、災害時と認識できる絵の方が、皆さ
245 ん自分の事と思うのではないか。
- 246 (事務局)
- 247 ・いざというときに、災害だけなのかどうかもあると思う。この項目の中には「施策3災害時の
248 ネットワークの充実」は書いてあるが、いざというときに災害以外もあるのではないかと考え
249 た。例えば自分の話で申し訳ないが、自分の母が、転んでしまって起き上がれないときがあり、
250 これがいざというときになって近所の人に助けってもらったということがあった。
- 251 (委員)
- 252 ・それであれば、この絵を少し工夫していただきたい。困ったなというニュアンスが出た絵の方
253 がいいと思った。検討いただきたい。
- 254 (副委員長)
- 255 ・基本目標2「地域人材の育成」についてはいかがか。
- 256 (委員)
- 257 ・強いて言うなら「やってみたいなが実現できる地域になっています」のところで、活動の場面
258 などの絵ではなく、人が立っている絵になっているが、意図的にしているのか。
- 259

- 260 (ジャパン総研)
- 261 • イラスト全てが、この計画に向けてのオリジナルではないことをご了承いただきたい。既存の
262 もの中から「やってみたい」という気持ちが表われているイラストを選んだ。
- 263 (副委員長)
- 264 • そういう意味では、ここでご意見いただければ、それに合ったものにするといった可能性があ
265 るということか。
- 266 (ジャパン総研)
- 267 • イラストに限りがあり、全て具体的なイラストをお出しできるわけではないが、何かイメージ
268 やアイデアを出していただけたら、そこに結び付けられるような工夫はさせていただく。
- 269 (副委員長)
- 270 • ここでいう「やってみたいな」は、福祉的、ボランティアな活動の絵が入れば良い気がする。
- 271 (委員)
- 272 • このイラストのまま吹き出しを付け足してもいいと思う。また、「目標達成に向けたおもな施
273 策」の内容「ボランティア・市民活動センターの機能を強化します」の表記は、抽象的に思う。
274 もう少し明確に記載してほしい。
- 275 (委員)
- 276 • そのことについては、前回の会議のとき、さまざまな事業展開の基盤である人材の確保や育成
277 を担う機能ということで、一本化して集中させるという話が出ていた気がするが、どう付け加
278 えるのか。
- 279 (事務局)
- 280 • 「機能を強化する」という抽象的な表現になっているのは、アクションプランに委ねる部分
281 がある。具体的にボランティア・市民活動センターの機能をどうするかは、アクションプランに
282 記載することになるので、施策のところあまり具体的に書いてしまうと縛りがでてきてしま
283 うため、このような表記にさせていただいた。アクションプランで細かい内容を書いていると
284 いうことをご了解いただきたいと思う。
- 285 (副委員長)
- 286 • では、具体的なものが入った時点でもう一度話すということとしたい。
- 287 (委員)
- 288 • 同じく「内容」のところ、「次世代を担う若者に対する福祉教育を拡充します」とあるが、
289 これが実現できたらいいと思う。具体的に社協が行う福祉教育の拡充とはどのようなことか。
290 社協でやるには荷が重いとを感じるが、何か見通しなどがあるのか。
- 291 (事務局)
- 292 • 現在小学校では、福祉的な体験を行うプログラムがある。市内の十数校に、2学期を中心に、
293 学校に出前をして、ボランティアと一緒に子どもたちが学ぶ福祉的な学習支援を継続して行っ
294 ている。この強化や、夏に行う体験ボランティアなどを通して福祉教育の支援を行ってい
295 きたいと考えている。
- 296 (副委員長)
- 297 • ここに「等」という言葉が入っているように市民活動的な要素も入ると思う。今行っているの
298 は、どちらかというと車椅子での移動を援助する体験をしたりする福祉教育の部分であると思
299 える。プラスアルファで進化はしてきているが、この「拡充」の内容をどう入れていくかが課
300 題だと思ふし、是非加えていくべきだと思う。

- 301 (委員)
- 302 • 同じような質問になるが「次世代を担う若者に対する福祉教育」の取り組みが、今の説明では
303 小学生に対するプログラムを言っている。これは大学などで取り組むべきことを社協が実施す
304 るということではないのか。
- 305 (事務局)
- 306 • 先ほどの説明は、今現在取り組んでいることである。副委員長がいわれたように、これから求
307 められているものを付加していくのが、今後求められているものだと理解しているので、可能
308 性としては広がっていくと考えている。
- 309 (副委員長)
- 310 • 対象とする世代も拡大していく可能性もあるということでも理解した。次、基本目標3「地域の
311 課題解決力強化」へ移りたい。まず、表題とキャッチコピーが、「地域課題の解決に向けて」で
312 かぶっているのが、キャッチコピーの方を「困りごとの解決に向けて」としてはどうか。ここ
313 は、「課題解決力強化イコールいろいろな分野とつながること」と限定的に読めるが、「内容」
314 の記載は、「つながるだけでは解決しない課題」という表記であり、整合性がない。解決イコー
315 ルつながるだけなのか、他にも何かあるのかと混乱する。次、基本目標4「包括的な相談支援
316 体制の構築・コーディネート」へ移りたい。
- 317 (委員)
- 318 • これまで何回も意見が挙がったところの「多問題を抱えた世帯への支援や相談」についてだが、
319 たとえば高齢者の問題があったときに、一旦ワンストップで受け止めていただいて、包括等
320 につながりということはあると思うが、高齢者と引きこもりの息子さん、また学校に行けないお子
321 さんといった多世代に渡った相談のキーパーソンになってもらうのが、ここに当たるのではない
322 かと思う。ここには、窓口のこと、結びつかない人たちのこと、結びついているけれど多問題
323 を持っている人への社協の役割という記載が必要であると思う。
- 324 (事務局)
- 325 • 社協として多問題を丸ごと受け止めるということ、ここできちんと出していかないといいな
326 いという意見ととらえ、そのことを加えるような形で検討させていただきたい。
- 327 (副委員長)
- 328 • 気になっていることとして、「地域共生社会」は入っているが、「我が事・丸ごと」という言葉
329 がどこにも入っていないということである。「我が丸」を入れるかは別の議論になると思うが、
330 今の中村委員の意見は「丸ごと」にあたる話だと思うので、加えた方がよい。
- 331 (委員)
- 332 • 施策1「困っている人を見つける仕組みづくり」の「見つける」という言葉が、何か探し物を
333 するようなイメージに受け取れる。内容としては、困った人がいたとき社協に困りごとが集まり、
334 この困りごとを結集させるためのコーディネートを「必要な支援」という言い方をしている
335 ということであると思うので、「困っている人を見つける」よりも困った人がいた場合の仕組
336 みづくりというイメージが良いのではないかと。
- 337 (委員)
- 338 • 「見つける」という言葉は失礼だと思う。いろいろな関係機関が努力をしてアウトリーチして
339 いるが、地域住民のつながりがあるからこそ、社協だからこそ見つけられるということは大い
340 にあると思うので、表現について工夫が必要だと思う。
- 341 (委員)
- 342 • 困っている人が自分から手を挙げるというのは少ないので、民生委員の仕事は、困っている人
343 を見つけることだと言っている。この言葉が良いかは分からないが、この取り組みは必要だと

344 思う。

345 (委員長)

346 ・全ての目標の構造とも関係するが、各施策についていずれ評価する段階になったときに、目標
347 に対する5年後の西東京市の姿と照らしてどのように評価するかということが重要な問題にな
348 ってくる。つまり、「2024年の西東京市の姿」と施策の整合性は、もう少し慎重に考えた方
349 がいいと感じた。よって、5年後の姿には、「つながっています」や「見つけることができます」
350 という表記にとどめるのではなく、計画実行の先にある姿等、問題解決につながっている表記
351 にする必要があると感じた。

352 (委員)

353 ・この基本目標が、先ほどの「西東京市スタイル」の図式であると思うが、つながったり、見つ
354 けたりと、解決する仕組みづくりというのは、ワンストップの感じが出ていていいが、施策2
355 「個別支援と地域支援によるニーズ解決」という表記は、何をどうやるかが、ピンとこない。
356 これを見てすぐに「西東京市スタイル」と分かる表現にはならないと思った。

357 (副委員長)

358 ・では基本目標5「情報提供体制の充実」に移りたい。「内容」のところの事業の表記が「仕組
359 みづくりに取り組みます」が三つ続いているので、言葉を変えた方がいいのではないかと。

360 (委員)

361 ・周りにいる高齢者の方に意見を聞くと、最近の西東京市にしても、情報を得る方法がホームペ
362 ージとかインターネットなどが多くて、その時点から拒否反応がでてきているという状態とのこと
363 である。欲しい情報を受け取れる状況になっているといい。例えば前回の会議では、掲示板の
364 利用をもう少し工夫するなどの意見が出ていたと思うが、それが反映されていないのが寂しい。

365 (副委員長)

366 ・「内容」の1個目、「あらゆる対象に情報が届くよう広報戦略を策定します」の記載がそのこと
367 である。表現は抽象的になっているが、これからアクションプランに、具体的なプランが載っ
368 てくると思う。高齢の方にとってはそのようでも、逆に若い人たちには、もっとSNSを活用
369 しなければ届かないなどの意見もある。どちらも、「あらゆる対象」に込められていると思う。
370 では、基本目標6「西東京市スタイルを支える社協の基礎・運営強化」に移りたい。1個目の
371 施策「基盤整備」の内容についてだが、取り組みが「自己財源の確保」つまり「お金」のこと
372 になっているので、ここは財政基盤にしてしまっても良いと思う。後にガバナンスのこともある
373 ので、お金の特化した言い方にして良いと思うが。

374 (委員)

375 ・目標に「社協を身近に感じてもらい、ファンを増やそう」とうたっているが、施策を見るとそ
376 れに即した内容ではない気がする。私の選出母体である包括は支援、ボランティアになって
377 らう方に対して、サポーターという言葉を使っているが、あえてファンという言葉にしたのか。

378 (副委員長)

379 ・確かにこの三つの施策でファンが生まれるかどうかは考えづらい。

380 (事務局)

381 ・こちらとしても苦肉の策で、サポーターというとありきたりな感じがあり、何かいい言葉がな
382 いかというところでの案である。確かに施策をみると、「これでファンが増えるのか」と言われ
383 ると、どうなのかとは思う。

384 (副委員長)

385 ・むしろ、基本目標5の「情報提供体制の拡充」の取り組みの方が、ファンを増やすことにつな
386 がるかもしれないが、基本目標6は「基盤運営の強化」なので、「信頼される」など別の言い方

387 があってもいいかもしれない。

388 (委員長)

389 ・例えばバスケだとブースターを使う。一つの考え方としてサポーターだと支えるイメージがあ
390 るが、推進とか推す意味であればそういった言い方もある。

391 (副委員長)

392 ・バスケ好きでないと伝わらない。いろいろあると思うが、施策にもう1個、前の情報との絡み
393 を含めて追加するなどはいかがか。こういった指摘があったと認識をいただいて、事務局には
394 検討していただきたい。ここ基本目標6はハードに議論していく部分だと思う。残りの時間で
395 全般を見回して言い忘れたことなどあればお願いしたい。次回11月のときはアクションプラ
396 ンがしっかり入ってくる。

397 (委員)

398 ・基本目標4「包括的な相談支援体制の構築・コーディネート」へ戻る。「2024年の西東京市
399 の姿」のところで、「支援に結び付かない人をしっかりと見つけることができます」について、
400 「誰一人排除されず支援にアクセスできます」というのはどうか。「やってあげます」「見つけ
401 ます」や「支援に結び付かない」という言葉がつくと、フィルターがかかってしまうので、誰
402 でも受け入れる体制ができているといった方がより柔らかな表現になると思った。つなげた後
403 もしっかり支援していくとなると、また違う言い方が良いかもしれない。

404 (副委員長)

405 ・一通り総覧した。大きな宿題は「ケーキ」であるが、委員の皆さんは、取り組みやアクション
406 プラン等が入った段階でもう一度拝見することに関心が高いと思う。事前送付願いたい。

407

408 5. その他

409 (事務局)

410 ・アクションプランについては現在、まだプロジェクトチームで委員会の意見を踏まえながら作
411 成中なので、中間のまとめ後も引き続き検討し、追加をする場合があるということをご了承い
412 てください。

413

414 (委員長)

415 ・話を伺いながら思ったのは、第5章「西東京市スタイル」のところのキーワード「連携・協働・
416 解決」だが、どのように連携・協働・解決するかが大事だと感じた。その有り様を、どう絵に
417 するかだ。事務局の努力の基に成り立っていることはあるが、いいものを作るにあたってその
418 努力があるからこそ妥協せず、事務局、委員長、副委員長で検討しながら、次回出すものは「み
419 ごとだ」となるよう努力していきたい。今日は貴重な意見をいただいたと思っている。

420

421 (副委員長)

422 ・今回は、11月20日でよろしく願いたい。

423

424 ・事務局より配布資料「まちづくりサミット」について説明

425

426

427 6. 次回以降の日程、会場

428 ・日時 平成30年11月20日(火) 19時~21時

429 ・会場 田無総合福祉センター(2F)視聴覚室